

6月6日(月)

あなたは願わなかった

聖書朗読 ヤコブ 4:1~3

わたしを呼べ。そうすれば、わたしは、あなたに答え、あなたの知らない、理解を越えた大いなる事を、あなたに告げよう。 エレミヤ 33:3

先輩クリスチャンのある姉妹は、何かを必要としている人や困っている人に「そのことを神様に祈りましたか？」と話すことで知られています。私も、悩みを抱えることがあっても、すぐ神様にそのことについてお祈りするということをして来ませんでした。

勿論、神様に信頼しています。しかし、自分でやって出来なかったら、神様にお願いするという、祈りを最後の手段としてきたように思います。主は、勿論何でもおできるなるお方なのは、分かっています。しかし、時として、自分が抱えている問題に主は関心がないのではとってしまうのです。祈りをないがしろにしている訳ではないのです。でも、自分を振り返ると、私はこの世にどっぷりと漬りすぎていて、自分がこの世には異なる世界に属していることを忘れてしまっているのです。

問題は「神様が本当に応えてくださるか？」ではなく、「私が神様にお願いしたか？」なのです。神様が、祈りに応えてくださるように、まず、神様に寄り頼んだのか、それとも、自分で何とかしようとしたかということです。私は今、自問自答したいと思います。神様が全てをご支配していらっしゃる全能のお方であることを本当に信じていますか。自分を神様の前でさらけ出し、心から祈っていますか。今日悔い改めて、まず、主に祈る生活を始めたいと思います。

讚美歌 73

祈り 親愛なる主、人類のお父様。私たちの愚かなやり方を許してください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

ボブ・マイズ
テキサス州 ラボック

今日の日

2022年6月6日~6月12日

翻訳 村越 克子
岡元 裕子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

6月7日 (火)

光 と 闇

聖書朗読 Iペテロ 2：4～10

しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。

Iペテロ 2：9

ちょっと考えてみてください。これまでに行ったところで、一番暗い場所はどこですか？ 私は、ニューメキシコ州にある「カールズバッド洞窟」です。子どものころ、カールズバッド洞窟群国立公園（世界最大級の鍾乳洞群）の保護管がまだガイド付きのツアーをやっていました。ツアーのグループが洞窟の最深部に着いたとき、参加者はその場に座り、ヘッドライトや懐中電灯を消しました。自然光はその深さまで到達することができません。暗闇はとても厚くて、それを感じることもできませんでした。完全な暗闇と抑圧的な沈黙。みんなが明かりを再びつけたとき、子どもの私はほっとしました。

カールズバッド洞窟と同じくらい暗く、もっと深い闇が今の世の中にはあります。イザヤは「見よ。やみが地をおおい、暗やみが諸国の民をおおっている」（イザヤ60：2）と語りました。イザヤは当時の状況について語ったのですが、イザヤのこの言葉には、今日の私たちにとってもより深い意味があります。イザヤが語った闇とは罪のことであり、罪は依然としてこの世を覆っています。私たちが、自分たちでこの暗闇から抜け出す方法を見つけるのは絶望的で、どうすることもできません。

しかし、私たちは自分たちだけに頼らなくてもいいのです。イエス様が、世の光として地上に来られたとき、神様の光がこの世の闇に燃え上がり照らしました。イエス様は、私たちの暗闇を輝かせ、暗闇から抜け出してイエス様のすばらしい光に通じる道を示してくださいます。さあ、輝きましょう。

讃美歌 276

祈り お父様、イエス様という光で私たちの周りの世界に照らしくださいますことを、ほめたたえます。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

ケン・デヴィッドソン ジュニア
アリゾナ州 ペイソン

6月8日 (水)

身を慎み、目を覚ましていなさい

聖書朗読 Iペテロ 5：6～11

身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。

Iペテロ 5：8

「ディッキー、あれ何？」と私は彼に尋ねました。「たぶん、マウンテンライオンだと思うよ」とディッキー。夜になって、今まで聞いたことのないような鋭い鳴き声がずっとなっていました。ディッキーが「マウンテンライオン」と言ったとき、私はハッと目を覚まし、あらゆる音を聞くために神経をとがらせました。

ディッキーと私は、ビッグバンド国立公園のチソス山脈の東側でキャンプをしていました。息子たちと彼らの友だちと一緒に旅行中で、山で3泊する予定でした。山道は険しくて暑かったので、私は薄っぺらな寝袋の中でほとんど眠っていましたが、ライオンの鳴き声が私のすべての感覚を研ぎ澄ませたのです。感謝することに、その後、何の危害もありませんでした。

キャンプでは、マウンテンライオンの存在を知らされました。しかし、私たちの日々の生活でも、たえず、私たちの周りでは、悪魔が私たちを食い尽くそうとしています。「悪魔は私たちに襲いかかる機会を狙っていて、私たちがちょっとウトウトしたすきに、何事もないようにサッと襲いかかるのです」という警告に耳を傾けましょう。

悪魔にすきを与えないように、神様に注意を向け続けて警戒しましょう。「どうか、神のご支配が世々限りなくありますように」。

讃美歌 II 146

祈り 天国にいらっしゃいますお父様。私たちの魂の偉大な羊飼いとしてみなさんにすべての賛美が与えられています。あなたのむちとあなたの杖に、私たちが必要とする守りを求めます。あらゆる悪から私たちを守ってくださるお方として、あなたに注意を向け続けることができますように助けてください。

イエス様の御名においてお祈りします。アーメン。

クリス・フリゼル
テキサス州 グランベリー

6月9日(木)

学 び を や め な い

聖書朗読 Iペテロ 1:3~21

その忍耐を完全に働かせない。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。
ヤコブ 1:4

一生涯何かを突き詰めて勉強するという事は、とても意味のあることです。しかし、ヤコブはもっと別の意味での深い学びを勧めています。それは深く聖書を学ぶということです。聖書を学び、神様と自分の関係をしっかりと築き上げるということは、物質主義に陥ったり、ネガティブな思いに捕らわれたりすることから自分を守ることになります。また、神様に日々祈りつつ生きるということです。

あなたの若い日にみことばの知恵を求めましょう。みことばが、あなたが将来することになるすべての選択、決断、反応の基礎になるからです。成長するにつれて、その基礎の上に信仰の知恵が築かれ、自分の中に入っているみことばがより確信に満ちたものとなります。

まず、主に対して自分を開きましょう。みこころを行ないたいことを主にお伝えし、実行するとき、あなたの信仰は、愛、喜び、優しさ、善良さ、自制心といった目に見えない御霊の実を結ぶこととなります。このような目には見えないものが成長することにより、心の筋肉が鍛えられます。絶望的に見える時でも。その先に希望が見えます。行き詰まったら、みことばと祈りによって、神様のお導きを求めましょう。神様を求めることは益々神様との深い関係を築き上げます。

どうか、望みの神が、あなたがたを信仰によるすべての喜びと平和をもって満たし、聖霊の力によって望みにあふれさせてくださいますように。

ローマ15:13

聖歌 II 80

祈り 親愛なるお父様。みことばは、私にとって素晴らしい宝物です。みことばから学ぶことが喜びです。なぜなら、この世ができないことを毎日そして永遠に与えてくださるからです。私をはじめ、みことばから学ぶために、みことばを開くすべての人が、学ぶことをやめないように助けてください。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

W. スコット・ウッドリー
テネシー州 キングストン

6月10日(金)

奇 跡 の 後 で

聖書朗読 マルコの福音書 6:45~52

弟子たちは心の中で非常に驚いた。彼らはパンのことを理解せず、その心が頑なになっていたからである。
マルコ 6:51~52

最近、祈りが答えられたという経験をしましたか。弟子たちはたった今、5千人の給食の奇跡を目の当たりにしました。彼らには、お腹を空かせた群衆にあげる食べ物などありませんでした。せいぜいかき集めて粗末なパン5つと2匹の魚がやっとでした。

しかしイエス様は、それを取り、感謝の祈りをささげた後、裂かれました。男だけで5千人の群衆がお腹いっぱい食べました。パン切れや魚の残りを集めるのは圧倒的な経験だったでしょう。そこにはなかった食べ物がある、あなたの手の中に、かごの中に厳然としてあるのですから。

しかし、弟子たちは奇跡を体験しましたが、よく理解していませんでした。その奇跡の後、イエス様は弟子たちが、なぜその奇跡が起こったかを考える時間をお与えになるために舟に乗り込ませました。その後、向かい風がきて、弟子たちが先に進むことができないので、イエス様は彼らのところに湖面を歩いて行かれ「しっかりしなさい。わたした。恐れることはない。」と言われました。今さっきあのような素晴らしい奇跡を目撃していたにも関わらず、湖面を歩いていらっしやるイエス様を幽霊だと言い、おびえていたのです。なぜ、そのような奇跡が起こっても、イエス様を「生ける神」だと受け入れることが出来なかったのでしょうか。不思議なことです。

しかし、私達も弟子たちと同じようなことを現在しているのではないのでしょうか。仕事が決まったり、病気が小康状態になったり、失くした書類が出てきたり、ちょうど良い家が見つかったりしたとき、あなたはイエス様のみ声を聞かれましたか。「わたしだ。恐れることはない。」「全て、私がしたのだよ。」という、イエス様のはっきりとした御声を。どうぞ、イエス様がして下さった奇跡を奇跡と受け取り、イエス様を信じて歩いていきましょう。

讃美歌 112

祈り 創造主であられ救い主なる神様、あなたが人生において為してくださった奇跡を忘れて、嵐に目を奪われてしまう私達を赦してください。あなたを見ることができるよう。私たちの心を鎮めてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

共編者 エミリー・Y・レムリ

6月11日(土)

聞こえなかったのでしょうか？

使徒2：37～47

彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。
使徒の働き 2：42

一人の若い女の人がクリスチャンの輪の中に座って、話し合っている人たちを一生懸命に見つめていました。話し合いは日曜日の朝の集会における礼拝の本質に及びました。かの若い女の人が、ためらいがちに会話の流れを変えてこう言いました。「皆さんご存じのように、私は耳が良く聞こえないので、説教についていくことができないし、お祈りや聖書朗読を聞いたり、主の食卓のお祈りを理解したりすることもできません。賛美を聞くことすら難しいです。でも、私の信仰は増しています。ただそこにいるだけで私の信仰は成長しています。」彼女は、聴こえなくとも、そこで見たことにより神様の臨在を感じられたのです。

さて、使徒の働き2章には、弟子たちの語りとそれを聞く人々のことがたくさん書かれています。ペテロは「声を張り上げ」、人々は「私たちはどうしたらよいでしょうか。」と答えました。「使徒たちの教え」と「祈り」がありました。でも、もしあなたがその場にいたとして、耳が聞こえなかったとしたら、どうなるのでしょうか。上で言及した若い女の人だったら、「交わり」と「パン裂き(主の食卓)」、「天の不思議と地のしるし」、財産の共有、「心を一つにして宮に集まり」「喜びと真心をもって食事をともに」することに注目したでしょう。そして、彼女の信仰は成長したでしょう。できる限りのものを与えつつ受けると心に決めて、ただそこにいるだけで。私たちも同じですね。そこにいて、主の臨在を体験して、信仰が成長するのです。

子どもの頃、私は母に、なんで家(うち)はこんなにしょっちゅう教会に行くのと訊いたことがあります。母の答は「そうね、皆さんを励ますためよ。」でした。今では私にもそれがわかります。言ったり聞いたりすること以上に、そこにいて交わることには大きな力があるのです。

讃美歌 II 26

祈り 父なる神様、教会に集う時、兄弟姉妹からの励ましを見出すことができますように、そして私たちもまた彼らを励ますことができますように助けてください。あらゆる集会で言われたり聞かれたり見られたりすることによって、キリストのみ身体が建て上げられますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

共編者 スティーブン・S・レムリー

6月12日(日)

モリヤへの暗黒の旅

聖書朗読 創世記 22：1～8

様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。

ヤコブ 1：2

アブラハムが我が子を喜んで神への全焼のささげ物として献げたというのは、たとえ結末がどうなったのかを知っていても、深く悩んでしまう話です。しかし、今日の通読箇所にはモリヤの山への旅程のことしか書かれていません。アブラハムが神様に従おうと深く献身していたことがわかります。やっ！これが記録されている神様とアブラハムの出会いのうちで7番目で最後のものです。神様との出会いは、より深い信仰への召しでした。アブラハムは何度も失敗したこともありましたが、失敗を通して彼は神様のゆるぎない誠実さを見出したのです。今や彼は神様に全幅の信頼を寄せています。ヘブル人への手紙の著者はこう記しています。アブラハムは、神様は「イサクにあって、あなたの子孫が起こされる」と言われたご自分の約束を守られると確信していたので、人を死者の中からよみがえらせることもできると考えました。

とは言っても、モリヤへの旅はつらく大変困難なものでした。そのような経験をしたことがありますか。今、そういう経験をしていますか。親しい友人の死を悲しんだり、誰もが聞きたくないと思う診断に苦しんだりしていますか。あるいはただ人生の重みに押しつぶされそうになって、神様はどこにおられるのかと思悩んだりしていますか。聖書は何度も何度も断言しています。神様も私たちとともに苦しんでくださると。ひとり子イエス様が十字架上で死なれた時、苦しまれたように。神様は私たちを形作るために試練を用いられます。試練を通してこそ私たちは神様に信頼することができるようになるのです。心から信ずること。どのようにしてか、神様は備えてくださいます。

讃美歌 II 191

祈り 神様、困難な時や、苦しみにあう理由がわからない時にこそ、あなたへの信仰を増してください。暗闇の中にあつて、あなたを光として希望として見られますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アール・ラヴェンダー